

# りょう<sup>TM</sup>ゴシックPlusN

かな書体ファミリー



アドビオリジナル和文書体  
Adobe® Originals

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。溪仙の絵にあっては、夜桜の華やかさ、その一刹那が、ただ鮮やかに意識されるだけでは終わらない。一拍おいてか

りょうゴシック PlusN EL  
6/12 pt  
19 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜

りょうゴシック PlusN L  
8/16 pt  
17 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入

りょうゴシック PlusN R  
9/18 pt  
21 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その

りょうゴシック PlusN M  
12/22 pt  
23 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜

りょうゴシック PlusN B  
16/26 pt  
23 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ

りょうゴシック PlusN H  
24/36 pt  
プロポーショナル+手動調整

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。溪仙の絵にあつては、夜桜の華やかさ、

りょうゴシック PlusNL  
8/16 pt  
26 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。溪仙の絵にあつては、夜桜

りょうゴシック PlusN R  
9/18 pt  
30 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが伝わってくる。だから、その絵の夜桜の情景に感じ入った後に余韻が深く残る。溪仙の絵にあつては、夜桜の華やかさ、その一刹那が、ただ

りょうゴシック PlusN M  
12/22 pt  
33 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描いている。桜と山とがただ描かれているのではない。あたかも画家自身のところが夜桜と背景の山に包み込まれているかのようなのである。画家の感慨そのものが

りょうゴシック PlusN B  
16/26 pt  
34 字詰め 字送りベタ

祇園夜桜という作品で、日本画家の富田溪仙は夜桜の情景を見事に描い

りょうゴシック PlusN H  
24/36 pt  
プロポーションナル+手動調整

## りょう™ゴシック PlusN の特長

かな書体ファミリーりょうゴシックに小塚ゴシック®の Adobe-Japan1-3 に対応する文字を追加して Std 仕様の OpenType フォントとしました※1。従来のりょうゴシックと同様、かな書体として既存のゴシック体と組み合わせて使えるだけでなく、独立した日本語フォントとしても利用可能です※2。かな文字はアドビのタイプフェイスデザイナー西塚涼子による比較的小さめのデザイン。本文組版では読みやすく、落ち着いた感のある組みあがりの効果が得られます。また、伝統的なゴシック書体にはない、独自の明るさとスピード感のある筆致が特長です。

りょうゴシック PlusN のファミリーには Extra-Light, Light, Regular, Medium, Bold, Heavy, Ultra Heavy の 7 ウェイトのフォントを用意しました。りょうゴシック PlusN は Adobe-Japan1-3 の文字コレクションに対応する OpenType® Std フォントです。他の和文書体と組み合わせる場合には、Adobe InDesign® 日本語版の合成フォント機能のご利用を推奨いたします。

※1 りょうゴシック PlusN には Adobe-Japan1-3 文字コレクションに含まれる文字に加えて、国語審議会答申に定める「印刷標準字体」に対応する文字が標準の字体として含まれます。

### ファミリー構成

りょうゴシック PlusN EL (ExtraLight)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

りょうゴシック PlusN L (Light)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

りょうゴシック PlusN R (Regular)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

りょうゴシック PlusN M (Medium)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

りょうゴシック PlusN B (Bold)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

りょうゴシック PlusN H (Heavy)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

りょうゴシック PlusN UH (Ultra Heavy)

かなをえらぶことでタイプフェイスがかわる。

※2 りょうゴシック PlusN UH (Ultra Heavy) に含まれる漢字・数字・欧文その他の文字（ひらがな、カタカナ、句読点 [、。] しめ [×]、音引き [ー]、かなと漢字の繰り返し記号 [、ゞ、ゞ々]、かなの合字類および半角かな以外の文字）には、小塚ゴシック H (Heavy) のデザインが用いられています。これらの文字の太さは、りょうゴシック PlusN UH (Ultra Heavy) の仮名の太さとは適合していません。りょうゴシック PlusN のファミリーは、多様な和文書体と組み合わせるかな書体としてデザインされており、小塚ゴシックには UH のウェイトが存在しないためです。他の和文書体と組み合わせて、りょうゴシック PlusN UH (Ultra Heavy) の仮名の太さに合わせることを推奨します。



アドビシステムズ株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2  
ゲートシティ大崎イーストタワー  
www.adobe.com/jp

Adobe Systems Incorporated  
345 Park Avenue  
San Jose, California 95110-2704 USA  
www.adobe.com

Adobe, Adobe ロゴ, Adobe Originals ロゴ, 小塚ゴシック, りょう, および InDesign は Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国および/またはその他の国における登録商標または商標です。OpenType は Microsoft Corporation の米国および/またはその他の国における登録商標です。

© 2007 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

Adobe, the Adobe logo, the Adobe Originals logo, Kozuka Gothic, Ryo, and InDesign are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. OpenType is a registered trademark of Microsoft Corporation in the U.S. and/or other countries.